第３号

生涯学習の窓

富山大学生涯学習教育研究センターニュース　　平成10年11月25日

センター３年目を迎えて

センター長
米田政明

文部省令の施設として富山大学に生涯学習教育研究センターが設置されて２年が経ち、３年目に入っています。この間、大学を取り巻く環境もずいぶん変わったように思います。公的機関の情報公開が叫ばれる中で、大学も例外ではなく、外に対し特に地域社会に対して情報発信をしていくことが以前にも増して重要となってきました。本センターの役割は富山大学を地域社会に開放する際の「窓」であると認識しています。その意味で、本センターの責任の重さに改めて身の引き締まる思いがします。

さて、この２年間、センター運営委員や公開講座専門委員をはじめとする皆様のご協力により、センターの事業も軌道に乗ってきました。特に、出前公開講座は年を追って注文が増えており、地域社会の学習要求の高度化と相俟って今後さらに忙しくなるものと考えています。

また、今後取り組みたいことの一つに本学学生向けの授業の一部を公開講座として市民に開放することがあります。すでに滋賀大学などで実施されていますが、受講した市民の評判は大変よく、また市民が同席することが学生の受講態度に好影響を与えるので、授業を担当した先生の印象も大変よいとのことです。

昨秋、センターが主催して「富山大学における大学開放の在り方」を考えるフォーラムを開催したところ、学外有識者から多くの貴重な意見をいただきました。今後、定期的に意見・提言をいただくために「センター懇話会（仮称）」を設置したいと考えています。センター懇話会は、富山大学の地域貢献に対するいわば「外部評価」の場であり、来年度早々の設置に向けて、今秋に再度フォーラムを開催します。

皆様には、大学開放の重要性をご理解いただき、今後ともセンターの事業にご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



出張公開講座「高齢化社会と法」



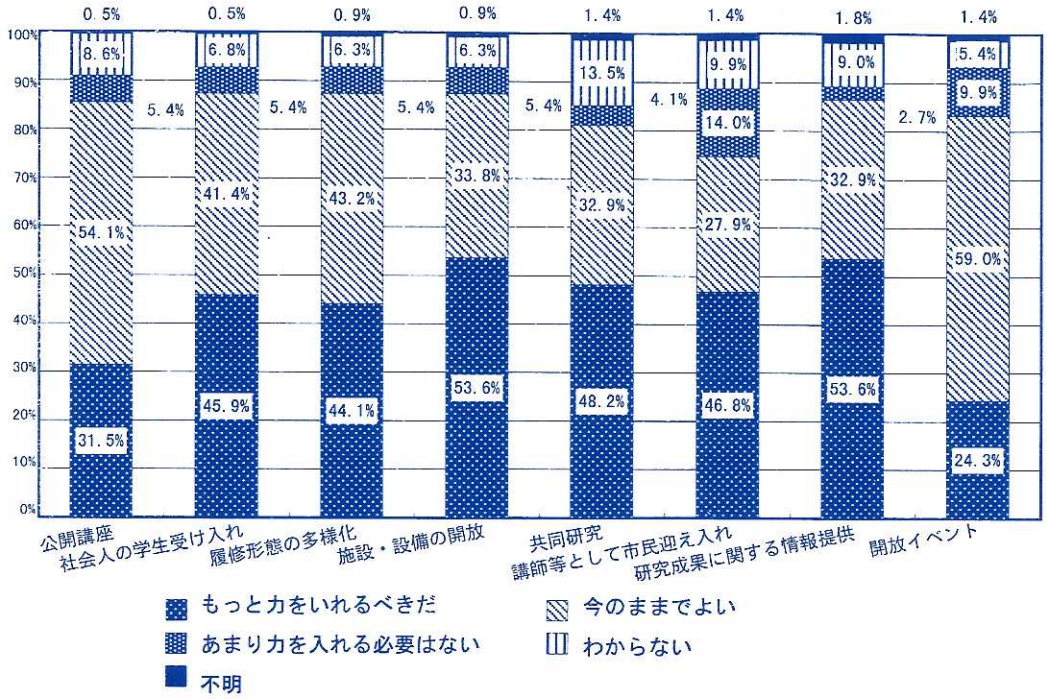
公開講座「ゴルフ」

「大学開放に関する富山大学教員のアンケート調査」報告から

本センターでは、昨年、本学全教員を対象に「大学開放に関する富山大学教員のアンケート調査」を実施した。その報告は、本センター年報の創刊号で行っているが、再度、本報告の一部分を紹介する。

大学開放とは「大学のもつ知的・人的・物的資源を市民に提供したり、研究・教育の担い手として市民を迎え入れること」である。問1では、大学開放の課題を八つ提示し、本学における大学開放の現状について評価を求めた（図1参照）。以下、各々の課題の回答結果について簡潔にコメントしていく。

図1　大学開放の現状の評価・事柄別（N＝222）



①公開講座の実施

「今のままでよい」が約54%となったが、以下の様な意見も出た。「 … 経済学のように（平均してみれば）教育も研究も国際的なレベルと比べて日本の大学が大きく劣る分野が少なからずある。… 大学開放、例えば公開講座は、教官が世界に誇る研究をしているときに初めてその意義がある …」（経済・助教授）。本事柄の現状は、量的側面はさておき、質的側面（テーマ、内容及び方法等）に関しては問題があり、「もっと力を入れるべきだ」と評価するのが適切であると言える。

②社会人の正規の学生としての受け入れ

「もっと力を入れるべきだ」と「今のままでよい」が各々4割台でほぼ拮抗しているが、量的な充実策を実施する一方、「経済的に恵まれた人々」の入学に限定されないように奨学金制度の充実、有給教育休暇制度の確立、卒業後の就職・再就職先の確保等課題は多い。

③履修形態の多様化（科目等履修生・聴講生・研究生等の受け入れ等）

「もっと力を入れるべきだ」と「今のままでよい」とが各々4割台で拮抗しているが、本学では正規の教育課程（教養教育）の一部分を一般市民に開放する「公開授業」の実施を来年度計画している。

④施設・設備（図書館・スポーツ施設・グラウンド等）の一般市民への開放

教員の業務負担増にはつながらないということや、「目に見えやすい」日常的な活動であるということから、その他の事柄と比べて更なる推進を求める声が多かった、と考えられる。図書館の土日の開館時間の拡大が、学内者を含めた市民一般のために求められる。

⑤地域社会や市民との共同研究

「もっと力を入れるべきだ」が50%近くを占める一方で、「わからない」が約14%で全事柄の内で最も高い比率となり、本事柄の現状を明らかにする調査の必要性が提起された。

⑥正規の教育課程において、講師（非常勤）や助言者として一般市民を迎え入れること

教育は、他の教育者との相互作用を必然とするものではないことや、一般市民を「現場の専門家」として迎え入れることは教員の自己批判を意味することから、「あまり力を入れる必要はない」が14%で全事柄の内で最も高い比率となった、と考えられる。

⑦研究成果に関する情報の地域社会への提供

更なる充実を求める声が5割を超えた。情報提供を受けて地域社会の側から講師依頼が大学に又は直接教員に対してなされ、本学の出張公開講座や自治体や民間主催の学級・講座等が実施され、県下の生涯学習が振興されるのである。

⑧夢大学 in TOYAMAや体験入学のような大学開放イベント

「もっと力を入れるべきだ」は全事柄の内で最も低い約24%であったが、自由記述欄の意見を踏まえれば、大学祭と教員版の大学祭「夢大学in TOYAMAや体験入学」を組み合わせた新しい形の大学開放イベントの企画・実施の検討の余地がある。

（文責．室　進一）

公開講座講師経験者に聞く

—教員の生涯学習の機会としての公開講座—

公開講座は、市民だけではなく講師にとっても“学びの機会”になり得るものである。公開講座における講師の学習に関して二人の教員の体験談を紹介する。

“自らの研究・教育の励みになる公開講座”　教育学部 山地啓司教授

山地先生は、本学の公開講座「ジョギング・ランニングコース」の講師を1983年から昨年まで15年間連続で担当されてきた。先生にとって公開講座の講師活動は、三つの点で魅力があると言う。一つは、20歳過ぎから最高80歳までの幅広い年齢層の人々を対象として継続的に生理学的・心理学的研究が行えること。一つは、研究成果である開発した機械を試せること。公開講座の受講生は、学生と比べて質問もよくし、「走りながら脈をはかれないんですか」という質問から15日分の脈が記録可能なパルスグラフ（SEIKO社）が開発された。最後の一つは、競技者以外の人々にも走る喜びを分かってもらえることで、受講生の走る気を起こさせるために色々と工夫をこらすことで教育方法が改善されると言う。30分間ほどのお話であったが、先生がジョギング・ランニングを仕事としてだけでなく、趣味としても楽しんでおられる様子がよくうかがえた。

“教えあい、学びあいの楽しさを味わう公開講座”　保健管理センター 西村優紀美講師

西村先生の研究テーマは、学校臨床であり、平成9年度の『現代に生きる子どもたち～現代日本の直面する教育の諸問題』を分担担当した。公開講座の受講生は、表情が豊かで、話し手に向かう“気”を強く感じさせる人達が多く、その勢いに乗せられるかのように、講師も気持ち良く話を展開することができたという。そして、教える側が楽しそうだと学ぶ側も更に意欲的になる、といった好循環が生じるわけである。また、講座の終了後も、共通する関心事を媒介に、受講生とのお付き合いが続くという貴重な出会いもあったとのことで、様々な立場の受講生から講師が逆に学ぶことが多いのも、公開講座の利点ではないだろうか、というお話しであった。

（インタビューアー．室　進一）

センター年報創刊される

昨10月、『生涯学習教育研究センター年報』第1巻が刊行されました。内容は、委員会報告、研究論文、資料の三本立てです。本年報に対するご意見、ご要望をお待ちしております。第２巻からは、センター外部にも投稿を呼びかけていく予定でおりますので、その節はふるってご応募ください。

東海・北陸地区大学放送公開講座

放送利用の大学公開講座は、平成８年度から東海・北陸地区９大学、放送教育開発センター及び民間放送局が連携・協力して企画・実施してきました。しかし、10年２月、放送大学がＣＳ利用によって全国放送を開始したことに伴い、放送教育開発センターが改組されて協力が得られなくなり、残念ながら10年度をもって終了することになります。

【テレビ講座】

「21世紀日本への展望 ― 社会・環境・医療 ―」

放 送 期 間▶９月12日(土)～12月5日(土)
毎週土曜日（13回）
AM5:30～6:00（北日本放送）

スクーリング▶12月13日(日) PM1:30～
生涯学習教育研究センター

【ラジオ講座】

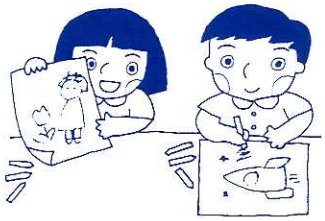
「21世紀に向けての法 ― 生活に役立つ法 ―」

放 送 期 間▶10月４日(日)～12月27日(日)
毎週日曜日（13回）
AM8:00～8:30（北日本放送）

スクーリング▶１月10日(日) PM1:30～
生涯学習教育研究センター

出張公開講座実施経過

- ☒６月６日（土）「理科教育から見えてくる子どもたち」
  （児童クラブ指導員養成講習会、呉羽少年自然の家）
- ☒６月13日（土）「日本海地域の自然」
  「コンピュータ教育から見えてくる子どもたち」
  （児童クラブ指導員養成講習会、呉羽少年自然の家）
- ☒６月27日（土）「子どもの絵と発達『児童からのメッセージ』」
  （市町村会長及び事務局長、富山県職員会館）
- ☒７月23日（木）「高齢化社会と法」
  （福岡町民カレッジ教養講座、福岡町Ｕホール）
- ☒９月26日（土）「呉羽丘陵の動物と自然保護」
  （児童クラブ指導員、呉羽少年自然の家）
- ☒10月17日（土）「手作りおもちゃで遊ぼう」
  （呉羽小学校１～６学年の親子、呉羽小学校体育館）



会議・研究会報告

- ６月９日(火) 第１回生涯学習教育研究センター運営委員会
  第１回生涯学習教育研究センター自己点検評価委員会
- ７月15日(水) 東海・北陸地区放送利用の大学公開講座第７回連絡会議
- 10月１日(木) 第10回大学開放の在り方に関する研究会
- 10月２日(金) 第４回生涯学習実務者協議会
- 11月４日(水)～６日(金)
  平成10年度生涯学習機関等の連携に関する研究協議会
- 11月５日(木)～６日(金)
  第20回全国国立大学生涯学習系センター研究協議会

行事予定

・『富山大学における大学開放の在り方を考えるフォーラム』
11月26日(木) ＰＭ２：00～
黒田講堂会議室

・公開講座
『硬式テニス（初級者コース）』
12月18日(金)～22日(火)
富山大学第一体育館
『親子スキー教室』
１月23日(土)～24日(日)
牛岳スキー場

発行：富山大学生涯学習教育研究センター／〒930-8555富山市五福3190／TEL0764-45-6956／FAX0764-45-6960／平成10年11月25日